

# 議会からのたより



発行：遠別町議会 編集：議会報発行特別委員会

### 議会の主な動き (令和元年11月～令和2年1月)

11月3日  
遠別町表彰式に議長外議員7名出席

11月12～16日  
全国町村議会議長大会及び留萌管内町村議会議長会行政視察のため議長東京都・鳥根県・鳥取県に出張

11月20日  
第5回議会全員協議会開催

11月28日  
第2師団長森下陸将を囲む会出席のため議長留萌市に出張

11月29日  
第3回議会運営委員会開催

12月3日  
第6回議会全員協議会開催

1月6日  
遠別町新年交礼会に議長外議員多数出席

1月7日  
遠別町消防団出初式に議長外議員5名出席

1月9日  
第1回議会報発行特別委員会開催

1月11日  
留萌駐屯地新春交礼会出席のため議長留萌市に出張

1月12日  
遠別町成人式に議長外議員6名出席

1月17日  
遠別商工会新年宴会に議長出席

1月27日  
第2回議会報発行特別委員会開催

1月28日  
遠別町老人クラブ連合会新年会に議長出席

## 第8回定例会

12月13日から16日まで4日間を会期として開催し、報告4件のほか、選挙1件、条例の改正等5件、補正予算6件、発議1件、意見案1件の合計18件の議案が提案され、原案通り可決し、会期を3日残して閉会した。

## 報告

- ◆ 総務産業常任委員会町内所管事務調査報告について
  - ◆ 文教厚生常任委員会町内所管事務調査報告について
  - ◆ 総務産業常任委員会道内所管事務調査報告について
  - ◆ 文教厚生常任委員会道内所管事務調査報告について
- 詳細は10ページ～12ページ

## 主な審議事項

◆ 選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について  
・次のとおり選任された。

補充員	委員	氏名	住所	備考
藤原峰夫	緒方通記	本町2		
家入麗子	竹之内真優美	本町2		
三浦睦	銅島拓信	本町5		
山本貴子	萩谷素子	本町2		
本町4	本町4	第1位		
本町4	本町4	第2位		
本町4	本町4	第3位		
本町4	本町4	第4位		

- ◆ 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例について
- ◆ 町長等の給与等に関する条例の一部改正について
- ◆ 町職員の給与に関する条例の一部改正について
- ◆ 議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について

## 主な補正予算

◆ 印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正について

【一般会計】

- ・ 遠別農業高等学校活性化（未来を担う人材育成施設建設）推進事業補助金 400万円増
- ・ 福祉灯油等購入助成金 480万円新規
- ・ 漂流船解体撤去工事 420万円新規

## 意見案

- ◆ 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書  
提出者 小森議員
  - 賛成者 柏谷議員、山本議員
- 意見案は12月13日の議会定例会で採択され、国の関係機関に送付した。



町立国保病院の  
あり方検討委員会答申

「有床診療所が望ましい」

遠別町立国保病院新改革プランに基づきまして、病院の施設整備及び事業形態の見直しなどに関しての検討を行うため、平成31年2月に設置いたしました「遠別町立国保病院のあり方検討委員会」の委員11名により、第1回会議を平成31年3月28日に開催し、7回の検討委員会にて議論と検討を行っていた。令和元年11月19日に合田慶光委員長から答申書の提出がありましたので、ご報告をいたします。答申は4点にわたっており、1点目として、遠別町の将来人口の推移を考えると「病院」から「有床診療所」への移行が望ましい。2点目として、病床数は有床診療所の上限である一般病床19床が望ましい。3点目として、移転候補

地は、「特別養護老人ホーム 友愛苑」敷地内の町有地が適地と考えられる。4点目として、有床診療所として移転新築した場合も、今まで以上に経営努力に傾注し、経営の健全化に努めるとともに医師2名体制など医療従事者の適正な確保を進めていくことが望まれるなどの内容で答申をいただきました。この検討委員会の答申を踏まえ、建替え及び事業形態の見直しに関する方向性を決定する参考にしたと考えております。



遠別町立国保病院の外観 (1/8 撮影)

遠別農業高等学校  
男子寮増築

「定員超過解消へ」

10月10日、議会臨時会で遠別農業高等学校を守る会へ補助金の承認をいただき、その後、直ちに建築確認申請、北海道への建築承認申請を行っております。建築確認申請につきましては、10月25日に確認済証の交付を受け、北海道からの承認については、11月1日付けで承認通知を受けております。建設業者ですが、プロポーザル方式により募集をし、11月26日に本体工事、設備工事、電気工事の契約を締結したことを遠別

農業高等学校を守る会より報告を受けております。ただ、冬期間の工事でありますことから、除雪経費、防寒養生費、電気設備等の経費が増え、工事費が増額になりますので、本定例会に補正予算を提案しております。男子寮につきましては、現在定員を超えている状態で、次年度以降、新入生を迎えるにあたり、適切な生徒指導を継続するためには、増築が必要不可欠であり、年度内に完成する運びとなっております。今後とも、遠別農業高等学校の教育環境の整備に対し、特段のご理解を賜りますようお願いを申し上げます。



建設（増築）中の男子寮 (1/17 撮影)



えんべんのんが聞きたい

第8回定例会「一般質問」



1 町民の交通機関の確保

Q【山本議員】 今、全国的に人口減少から公共交通機関の廃業や、運転手が確保できないため、運行数を削減するなどして、住民の日常生活に支障をきたしている。高齢により車を手放すと、バスとハイヤーが重要な足となる。ましてや、行政報告で、「デマンドバスの運行について、小・中学生の通学や交通弱者の足として欠かすことのできない、重要な交通手段である。それぞれの地域の実情等を調査するなど運行形態の見直しを行い、より効率良く、安心・安全な交通手段の確保に向けて、検討を重ねていく」とある。そこで、現在、運行のデマンドバス事業のこれからについて、どのような話し合いが行われているか、町長に伺う。

A【笹川町長】 本町のみならず多くの自治体では、少子高齢化、人口減少、マイカーの普及により、路線バス利用者の減少が顕著で、バス事業者が撤退せざるを得ない状況となっている。「地域公共交通会議」の合意を得て、「デマンドバス」として、平成24年4月から沿岸バス株式会社が行っている。

「デマンドバス」は、学生の通学や地域住民の通院・買い物等、交通手段を持たない交通弱者の足として、欠かすことのできない重要な交通手段であることから、来年10月以降、どのような運行形態がいいのか、地域の移動ニーズに対応した交通手段の確保に向け、現在、旭川運輸支局及び留萌振興局、民間事業者等と協議を続けている。協議がまとまった時点で「地域公共交通会議」の合意を得て、町民皆様に周知する。



再質問

Q【山本議員】 関係機関との協議が具体的にまとまる時期はいつか。

A【笹川町長】 民営、公営にかかわらず、今のデマンドバスの形態を行政として守っていく。心配の無いように進めていきたい。

2 補聴器等の補助

Q【山本議員】 聴力機能の低下により、人との関わりの中で、何度も聞き返す事への心苦しさや、聞く事や会話をあきらめたりするため、コミュニケーションがとりづらくなり、更には閉じこもり、抑うつ状態、認知症等々、難聴による生活の不便は多くの高齢者にとって大きな問題である。

障害者総合支援法で、中等度難聴者の高齢者は補助の対象外であり、身体障害者手帳の聴覚障害等級の一番低い6級では、両耳の聴力レベルが70デシベル以上のもの（40cm以上の距離で発声された会話を理解し得ないもの）で、中等度難聴は、40デ

シベル以上70デシベル未満で、（補聴器がないと会話の聞き取りが難しい）とされている。地方公共団体の本来の役割である住民福祉の増進、やさしさあふれるまちづくりのために、遠別町独自の補聴器への補助に対して、町長の考えを伺う。

A【笹川町長】 補聴器の購入補助は、聴覚障がいの方の身体障害者手帳をお持ちの方を対象に、所得の状況にもよるが、購入費用の9割を市町村が支給している。聴覚障がいによる、認知症を予防する観点から、人との会話を通してコミュニケーションを図ることは重要であり、高齢者の聞こえの支援の推進として補聴器購入助成制度は、コミュニケーションツール確保対策として、有効であると考えている。

両耳の聴力レベル40デシベル以上70デシベル未満の場合などの中程度の難聴者は、身体障害者手帳の交付対象とされていない。本町で何名の該当者がいるか把握できない状況である。

高齢による難聴者等の状況把握や、助成制度の必要性の調査に時間が必要であると考えている。

## 1 農業後継者への助成

**Q【木村議員】** 全国的に農業後継者不足により農業の高齢化が進んでおり、遠別町においても深刻な状況になっている。当町においては就業支援などにより、ここ数年新規就農者が出てきている。遠別町では、農業委員会が中心となり、農業後継者相談所が立ち上げられ、農業後継者育成に努力しているが具体的な成果が乏しい状況である。

**A【笹川町長】** 全国的に農業後継者不足については、高齢化等の影響により深刻な状況となっている。道東の浜中町では、2016年から、酪農業・漁業・商業も対象に、後継者に対し、1ヶ月5万円の助成を3年間続ける制度を設け、1年目に6名、2年目に3名の後継者ができたと聞いている。遠別町においても農業後継者等へ助成等の制度を設けることはできないか。



**A【笹川町長】** 全国的に農業後継者不足については、高齢化等の影響により深刻な状況となっている。

り、本町においても同様の課題を抱えている。国の「農業次世代人材投資事業」や、農業委員会の事業である「農業後継者対策補助金制度」を活用し、農業後継者相談所を通して、農業後継者の確保と農業実習生の受け入れに尽力している。また、遠別町新規就農者誘致特別措置条例を平成15年に制定しているところであるが、今後国の制度を活用するとともに、現行の条例のあり方を含め、町として新たに支援制度の制定に向けて検討している。

今後、農業情勢を踏まえながら、オロロン農業協同組合、農業委員会をはじめとした各団体と連携し意欲ある担い手の確保と持続的な農業経営、更には経営安定化に向け取組む事が不可欠であると考えている。

## 2 パロマウツナイ川整備

**Q【木村議員】** 数十年に一度という大雨に全国各地で毎年襲われ、大きな被害が報道されている。遠別町では、過去に大雨による河川の氾濫により、丸松地区の周辺の住宅が浸水被害に遭った。その後、氾濫したパロマウツナイ川の氾濫対策はどのようなものになっているか伺う。



**Q【木村議員】** 数十年に一度という大雨に全国各地で毎年襲われ、大きな被害が報道されている。

**A【笹川町長】** パロマウツナイ川整備については、現況を把握しながら補修及び工事により維持管理を行っており、平成26年、27年度に改修工事を行い、その後、農地の浸水など大きな被害もなく適正に管理されている。今後も床さらいなど河川の維持の努め、引き続き適正な管理をしていく。

## 合宿のふるさと事業 対象団体拡大

**Q【山下議員】** 平成28年度から本事業が始まり、初年度は利用団体が無かったとのことだが、2年目からは利用団体も増え、大変喜ばしいことである。現在、本事業要綱の中で対象活動が「少年団活動、中学校部活動を除く。」となっているが対象に加えることはできないか。対象を増やすことにより、交流人口も増え、また、利用団体と町内団体との交流が広がるのではないかと。町長の考えを伺う。

**A【笹川町長】** 現在の要綱は、対象を高校生以上の団体としている。事業の目的の一つ「町民との交流」という点については、町内団体からの希望もなく、今の段階で実施できていない状況にある。道内の合宿を推進している自治体の中で、児童生徒の団体まで対象範囲を広げている自治体も数多くあるため、本町においても、より効果的な事業とするために、現在の要綱を改正し、事業対象の範囲を児童生徒の団体まで拡大する方向で教育委員会と協議したい。また、児童生徒への助成額については、今までの実績等を検証しながら、事業目的にあった適正な額を設定したい。



足寄高等学校野球部来町(令和元年8月)



## 総務産業・文教厚生常任委員会町内合同所管事務調査

令和元年9月13日に総務産業常任委員会と文教厚生常任委員会による町内合同所管事務調査（現地調査）が行われ、午前中には現地調査活動として、丸松地区海岸保全整備事業の状況等を調査し、午後からは各常任委員会に分かれ、議会審議の参考に資するため、担当者への事情聴取が行われた。

### 現地調査活動

丸松地区海岸保全整備事業の状況



道の駅の状況



作況状況（久光）



旭温泉（内部）の状況



遠別中学校校舎（内部）の状況



なご一みの状況



### 事情聴取での調査活動事項

#### 総務産業常任委員会

#### － 青年部連携地域活性化事業の取り組み状況について －

当該事業の構成員は、遠別漁協青年部、JAオロロン青年部遠別ブロック、遠別商工会青年部、主に役場職員の個人会員の合計55名で構成される青年部連携地域活性化実行委員会にて、地域イベント事業などにより、まちの振興、地域経済の活性化を図ることを目的に設立された。平成29年度は、ひらめ底建網オーナーin遠別他3事業。平成30年度は平成29年度事業に小学生を対象にした農業・漁業の職場体験を行う事業を追加した4事業。今年度は、さらに山菜まつり事業他2事業を追加し、6事業が実施済みである。遠別町を担う若い人達が地域の活性化のために集まって活動されているのは好ましいことである。現時点では主催事業は少ないが、今後の活動に期待したい。



8/17 子ども夏まつり

#### 文教厚生常任委員会

#### － なご一みの利用状況等について －

公衆浴場利用者の状況、施設利用の状況などの聞き取りを行った。公衆浴場利用者状況については、老人福祉センターに公衆浴場があった時と比較し、オープン当初は多い状況であったが、現在の利用状況はほぼ同じで特に苦情等もない。施設の利用状況については、地域支え合いサロン、老人クラブ、その他社協関係団体などが会議室を多く利用している。その他、多世代交流事業として、4回にわたり、イベントを開催し、絵本読み聞かせ、昔遊び交流などを行い、7月20日には「なご一みオープン1周年記念事業」として、ライブショーとビアガーデンを開催し、約200人の町民が参加した。今後も引き続き、子どもからお年寄りまで、多世代が交流できる憩いの場としての役割を果たすべく、指定管理者である社会福祉協議会と連携し、施設の運営に当たっていただきたい。



なご一みオープン1周年記念事業

## 総務産業・文教厚生常任委員会道内合同所管事務調査

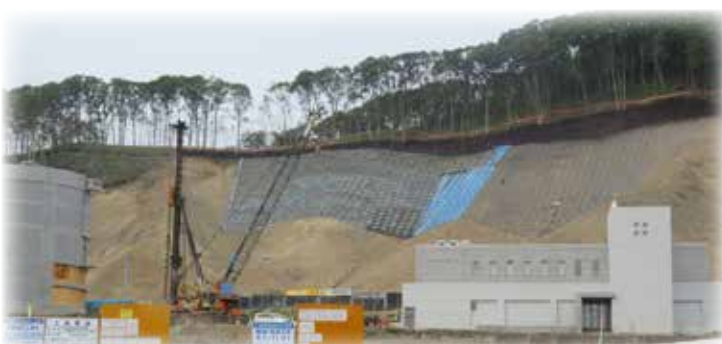
令和元年10月2日から4日にかけて、総務産業常任委員会と文教厚生常任委員会による道内合同所管事務調査が行われ、総務産業常任委員会柏谷委員長外2名、文教厚生常任委員会山本委員長外3名、議長、派遣職員1名、随員職員2名の計11名が出席した。

### 総務産業常任委員会

#### ①災害復旧に向けた取組みについて(厚真町)

10月3日

**調査報告** 2018年9月6日の胆振東部大震災では、厚真町で震度7を観測し、人的被害は死者37名、負傷者67名、住家被害は、全壊233棟を含む1,647棟で、翌日の各避難所への避難者は1,118名であった。1年余り経過した現在において、農地や道路など復旧工事が町内各所で施工されているが、未だに未施工の災害現場もある。応急仮設住宅は、トレーラーハウス、みなし仮設住宅を含め8地区に181戸を建設し、令和元年10月現在で、164世帯、366名が居住している。迅速な仮設住宅の整備等により、被災から約3ヶ月後の12月6日に町内全ての避難所を閉鎖している。仮設住宅入居者には、孤立防止や生活支援相談員の配置などを行っている。



厚真町の実体験から、日頃から災害に向けた備えが大切であり、行政として、受援体制、避難所運営、国・道・捜索機関等との連絡調整を行う指揮所運営などの訓練、情報収集・発信体制、避難行動要支援者名簿の更新、福祉避難所とペット同伴者対策の検討、インフラの強化、電源対策が必要である。住民も、防災情報を入手し、ハザードマップ、自主避難、家族等の安否確認などを含めた避難訓練、行政と連携した避難所運営訓練が必要。応急・復旧については、災害対策現地情報連絡員の派遣、国や道と連携し、応急期の技術者や職員の確保、国や道からの中長期派遣に伴う普及支援機動部隊の制度化、移動電源車や移動基地局の確保、燃料や食料を含む各界の広域応援体制の整備が必要。メンタルヘルスケア等の研修、地域の団結力と自治能力の向上、自主防災組織や防災マスターの育成が必要である。

#### ②人材育成・うりゅうの未来のまち・ひとづくり事業について(雨竜町)

10月4日

**調査報告** ふるさと創生事業基金等を活用し、町が将来にわたり活力と魅力あるまちづくりに資する人材育成のため、町内に住所を有し、または町内に勤務する者及び町内で活動している団体やグループに対し、自ら行う研修・交流事業等に助成している。助成内容は人材育成研修事業は経費の2/3以内で、研修派遣については、上限は国内が一人15万円、国外が一人50万円。地域活性化交流促進事業は、経費の1/2以内で、国内外の交流促進を目的に派遣する事業の上限は国内一人5万円、国外一人2.5万円。今年度からの事業で、研修派遣事業が2件実施済みで今後4件の研修派遣事業が予定されている。中にはファームレストラン経営を目指す個人による海外研修事業が含まれている。

高齢化が進む当町において、将来における町の活力と魅力あるまちづくりに資する人材育成は必要である。

当町においては、農業・漁業の後継者育成支援、各種団体への補助による育成支援を行っているところであるが、今後の遠別町を担う人材育成において、有望な個人の資質向上を支援することも遠別町の活性化の先行投資として必要な時期にきている。雨竜町の取組みはその一つの方法であり、その取組みを参考に遠別町にあった人材育成政策を望むものである。



雨竜町議会議場にて



文教厚生常任委員会

サービス付高齢者向け住宅について(奈井江町)

10月2日

**調査報告** 奈井江町立国民健康保険病院において、人口減少や高齢化の進行による将来の人口構造を見据え、適正な病床の在り方や地域の中で安心して生活を続けられる環境づくりに、病院として何ができるのかなどの検討を行い、平成28年4月に病床数を96床から50床に削減し、空き病棟となった3階部分をサービス付き高齢者向け住宅にすることとした。

まとめとして、町立国民健康保険病院内にサービス付高齢者向け住宅を設置したことにより、医療と介護の一体的なサービスが提供され、高齢者が安心して暮らせる住まいづくり(定住促進)、「生涯活躍のまち」構想による、いきがいづくりを推進している。当町においては、現在、「病院のあり方検討委員会」において、町立国保病院の今後について、検討がなされているが、奈井江町同様、人口減、高齢化が進む遠別町においても、医療、介護、定住促進を一体的に進める方策の一つとして有効であると考えられる。



## 議会を傍聴してみませんか

次の定例会は**3月上旬**の開催予定です。

詳しくはテレビ電話でご確認ください。

【お問い合わせ】

議会事務局

電話 7-2147 (直通)

メール gikai@town.embetsu.hokkaido.jp



### 議員出席状況

令和元年11月1日～令和2年1月31日

区分 議員名	定例会・臨時会						常任委員会等				特別委員会			合計			出席率 (%) ⑥/⑤									
	開催 日数 ①	出席内容			出席 日数 計 ②	欠席内容			総務 産業 ③	文教 厚生 ④	議会 運営 ⑤	全員 協議 会 ⑥	議会 報 発 行 ⑦	決 算 審 査 ⑧				開催 日 数 合 計 ①+ ③+ ⑤ ⑨	出 席 日 数 合 計 ②+ ④ ⑩	欠 席 日 数 合 計 ⑥ ⑪						
		全 日 出 席	遅 刻	早 退		慶 弔	病 欠	そ の 他													出席内容			欠席内容		
																					全 日 出 席 ④	遅 刻	早 退	出 席 計 ④	慶 弔	病 欠
西畑 広男	1	1			1				3	3			3				4	4		100.0%						
小森 嘉孝	1	1			1				5	5			5				6	6		100.0%						
白井 金治	1	1			1				4	4			4				5	5		100.0%						
柏谷 美春	1	1			1				3	3			3				4	4		100.0%						
木村 秀雄	1	1			1				2	2			2				3	3		100.0%						
千葉 光悦	1	1			1				2	2			2				3	3		100.0%						
大石 幸夫	1	1			1				2	2			2				3	3		100.0%						
山下 悟	1	1			1				4	4			4				5	5		100.0%						
山本 仁美	1			1	1				3	2			2			1	4	3	1	75.0%						

シリーズ

えんべつ町民 独占インタビュー

Vol.2

静かで暮らしやすい「えんべつ」がすき



◎遠別町の住民をピックアップし、まちの印象や、行政、議会に対する思いなどをインタビューし、議会活動に役立ていきます。

遠別中学校野球部3年  
千葉 京史君 (左)

遠別中学校女子バレーボール部3年  
笹川 琉那さん (右)



これまでの中学校生活を振り返ると生徒会、クラスにおいてみんなをまとめる苦労があった。部活動では少人数で近隣町村との合同チームとなり、練習やコミュニケーションなどが難しい状況ではあったが、野球、バレーボールそれぞれ全道大会に出場することができた。応援してくれた笹川町長を始め、町民の皆さんに感謝したいと話す二人。まちの印象を聞いてみると、昔から野球、バレーボールなどスポーツが盛んで、小さい子から高齢の方まで仲が良く、特に町内会活動がとても充実している。IP電話を利用したイベントの告知や、町内が静かで暮らしやすいところが気に入っているとのこと。最後に将来の夢を聞いたところ、千葉君はプロ野球選手、笹川さんは保育士になりたいとのこと。野球の強豪校に進学予定の千葉君には是非プロ野球選手になって「出身は遠別町です!」と胸を張って「えんべつ」をPRしてもらい、小さい子が大好きだという笹川さんには是非「えんべつ」で保育士として活躍してもらいたいものである。(文責 山下副委員長)



あしがき (白井委員)

本年2020年は東京オリンピックが開催され、国内外の方々の盛り上がり期待される。日本選手団の「ONE TEAM」での活躍を期待したい。

今年の干支は「子」年、十干は「庚」で十二支の「子」との組み合わせは相性が良いと言われている。新しい事にチャレンジするのに適しており、加えて、子孫繁栄と共に十二支のトップバッターということもあって「種の中に新しい生命が生まれた状態=命の始まり」という意味合いも持っている。少子化が進む現代において、子供を願う一組でも多くの夫婦に新しい命が宿ってほしいと願うばかりである。

議会報発行特別委員会

委員長	小森 嘉孝
副委員長	山下 悟
委員	白井 金治

タイトル写真



6ページのタイトル写真は、11月21日、遠別小学校2年生3名、先生1名が生活科「えがおのひみつたんけんたい」の学習で議場を見学した際に撮影しました。

